

コンクリート品質向上で幾多の業績



「われわれコンクリートに関わる技術者にとって本賞は名譽な賞。過去の業績が認められたこととを嬉しく思うとともに、機会を与えてくれた大林組と関係者の皆様へ感謝を申し上げたい」と吉田徳次郎博士の受賞の喜びを噛みしめる。主として1974年から37年間在籍した大林組技術研究所における「コンクリートの製造と



績や論文、若手研究者などが対象で、中でも最高峰となる研究業績部門は、中国地方の技術者としては約10年ぶりの選出

土木学会吉田賞「研究業績部門」に

近未来コンクリート研究会

代表 十河 茂幸氏



吉田賞のメダル

となる。

十河氏は、大林組及び広島工業大学において、コンクリートの材料、製造、施工をはじめとする高品質で高耐久な構造物に関連した研究に一貫して従事。マスコンクリートの品質向上のための低発熱型セメントの提案、液体窒素の注入によるコンクリートのプレクーリング工法の開発、フリーディング抑制に寄与する「タイ高速道路における知見の創出などといった先進的な技術を先導したほか、水中不分離性コンクリート、分離低減型PCグラウトなどの技術を開発した。

さらには、生コンの品質変動を抑制するため、細骨材の水浸計量システムの開発・実用化にも功し、土木学会において、「コンクリートの材料、製造、施工をはじめとする高品質で高耐久な構造物」の改定作業に深く携わるなど、コンクリート施工標準の確立に貢献したことも評価された。

印象深い仕事は「正直、数えきれない」とし、つつ、「大規模LNG地り、体力の続く限り貢献したいければ。」

【プロフィール】
1974年に九州大学大学院を修了し、大林組に入社。2011年から「橋でのセメント評価の統括管理」の3つを挙げ、退職後の18年に近未来コンクリート研究会を立ち上げた。「コンクリートで施工の自力が付いた、紆余曲折もあったが南」など多数の著書を持つ。

信条は「流れに逆らわず、流されず」で、成り行きに任せつつも確たる意志を持つことを心掛ける。1948年4月5日以下同

の全体最適を目指身。

Iを導入した場合の評価も行う。

WCアドバイサリーを受託候補者として特定し、

業務は、広島県・市やJR西日本などを含む、傾が想定する事業スキームに対する市の関与条件

4倍9700万円で錦建設

呉市の一般の「昭